# 聖書日課『からし種』2024.8.11－8.18

| | |
|---|---|
| 8月11日<br>（日）<br><br>イザヤ<br>65章 | **「わたしに尋ねようとしない者にも／わたしは、尋ね出される者となり…わたしの名を呼ばない民にも／わたしはここにいる、ここにいると言った」（1節）。**主の愛に背を向け、「思いのままに良くない道」を歩んで滅びを招いたイスラエル。その姿はまさに私たちのそのものだ。それでも今日「絶えることなく手を差し伸べて」おられる主のもとに集い、礼拝をささげよう。 |
| 12日<br>（月）<br><br>イザヤ<br>66章 | **「わたしは…すべての国、すべての言葉の民を集めるために臨む」（18節）、「わたしは彼らのうちからも祭司とレビ人を立てる、と主は言われる」（21節）。**イザヤが描く神の国の壮大なビジョン。正統なイスラエルの血筋に限定されてきた祭司やレビ人の働きがすべての人々によって担われる。すべての民と共に「御言葉におののく」（5節）礼拝をささげていこう。 |
| 13日<br>（火）<br><br>エレミヤ<br>1章 | **「若者にすぎないと言ってはならない。わたしがあなたを、だれのところへ／遣わそうとも…わたしがあなたと共にいて／必ず救い出す」（7－8節）。**若き日に預言者の召命を受けたエレミヤは、その生涯を御言葉の御用のためにささげた。最初に植えられた主の御言葉が、最後までエレミヤの心で燃え続けた。私たちの力ではない。御言葉に力と命があるのだ。 |
| 14日<br>（水）<br><br>エレミヤ<br>2章 | **「まことに、わが民は二つの悪を行った。生ける水の源であるわたしを捨てて／無用の水溜めを掘った」（13節）。**コンコンと湧き上がる生ける水。今日も主イエスは「誰でもわたしのところに来て飲め」と招かれる。ところが、わたしたちは自分が「渇いている」ことを自覚できずに「自分で何とかできる」と思ってしまう。朝、最初の一杯の水を主のもとに求めて始めよう。 |

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

# 聖書日課『からし種』2024.8.11－8.18

| | |
|---|---|
| 15日<br>（木）<br><br>エレミヤ<br>3章 | **「背信の女イスラエルよ、立ち帰れと／主は言われる。…わたしは慈しみ深く／とこしえに怒り続ける者ではないと／主は言われる」（12節）。**放蕩息子（ルカ 15 章）は、自分の愚かさをとことん思い知る中で、父のもとに立ち帰ることができた。その「時」は人それぞれに備えられているのだろう。気づかされた「時」に、毎日でも、素直に主のもとに立ち帰りたい。 |
| 16日<br>（金）<br><br>エレミヤ<br>4章 | **「『立ち帰れ、イスラエルよ』と／主は言われる。『わたしのもとに立ち帰れ』」（1節）。**「立ち帰れ」とは、180 度向きを変えること。目に見える富や力ではなく、目に見えない神の言葉を「杖」として握っていくこと。そのときに、自分の心の中で一番「妨げ」になっているものはなんだろう。意地か、恐れか、傲慢か。「頑なな石を取り除いてください」と祈ることから始めたい。 |
| 17日<br>（土）<br><br>エレミヤ<br>5章 | **「エルサレムの通りを巡り／よく見て、悟るがよい。広場で尋ねてみよ、ひとりでもいるか／正義を行い、真実を求める者が」（1節）。**主イエスが十字架を覚悟してエルサレムに近づいた時、「もしお前が平和への道をわきまえていたなら」とエルサレムのために涙を流された（ルカ 19 章）。今日、主イエスが私たちの間を歩まれたなら、どのように語られるのだろうか。 |
| 18日<br>（日）<br><br>エレミヤ<br>6章 | **「見よ、一つの民が北の国から来る。大いなる国が地の果てから奮い立って来る」（22節）。**エレミヤは北からの災い、大いなる滅びがやってくると告げた。歴史の支配者である神が北の国を用いて、エルサレムを打つというのである。それはエルサレムの民が神の言葉に耳を傾けなかったからだ。私たちは神の言葉を聞き、平安を祈りたい。 |

大井バプテスト教会